

利用率80%に達する

2ライン化で加工バランス重視

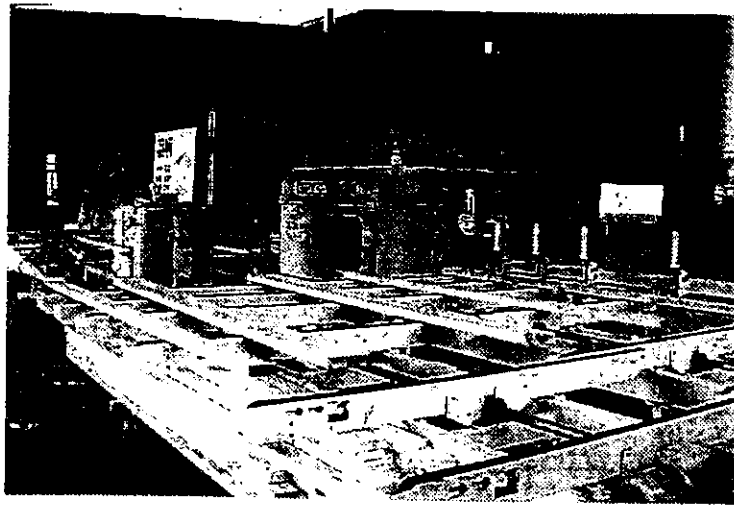
大型小売店

マルダイ

のマルダイ
(静岡県富士市、深沢裕一郎社長)は昨年、自社プレ

カット工場の羽柄材プレカットラインを2ラインに増設し、加工能力を1日12棟クラスへ引き上げた。大型工場として構造材ラインとのバランス取りを目指したもので、建築基準法改正などで増加している羽柄材の加工需要に対応した。

同社プレカット工場では事業在来・金物対応の構造材3ライン



昨年増設された羽柄材第2号ライン

の法改正により部材・工程管理や加工品質等の重要度が増し、羽柄材の工場加工が加わる。現場における工程短縮、廃材の排出抑制でコストを削減できるところから、構造材と羽柄材のセット加工は標準化だけでなく、加工範

囲の拡大が進行している。新ラインには宮川工機製の羽柄材加工機(MPC-14)が導入されており、間柱、筋違、根太、タルキなど羽柄材全般の加工を担う。効率アップのため材料投入と搬出の部分をカスタマイズしているのが特徴で、24時間操業を行っている。

(現状月産約8000坪)と羽柄材2、合板14の各ラインを整備済み。昨年の羽柄材ライン増設は、建築基準法4号特例の見直しなど率アップのため材料投入と搬出の部分をカスタマイズしているのが特徴で、24時間操業を行っている。現状の受注内容については、「構造材加工の受注物件の80%は何らかの羽柄材加工がセツトになっている」と(同社プレカット部門)とし、特に2ライン化以降は同比率が5%以上伸びているという。現場における工程短縮、廃材の排出抑制でコストを削減できるところから、構造材と羽柄材のセット加工は標準化だけでなく、加工範

「タルキのみだったユーザーが間柱等でも利用したりするようになるなど、プレカット依存度は高まっている」(同)。